

齋賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 2025年01月 >>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

最近の記事

- (01/27)[心アミロイドーシスについて](#)
- (01/25)[ビタミンD剤のガイドライン](#)
- (01/22)[駆出率が保たれた心不全・HFpEF](#)
- (01/20)[子宮頸がんの補足説明](#)
- (01/20)[子宮頸がん](#)

最近のコメント

- [鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用](#) by (09/13)
- [23価肺炎球菌ワクチンの局所反応](#) by (07/11)
- [急性心不全のラシックスの効果減弱](#) by (06/10)
- [小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について](#) by (05/02)
- [II型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について](#) by (04/19)

タグクラウド

カテゴリ

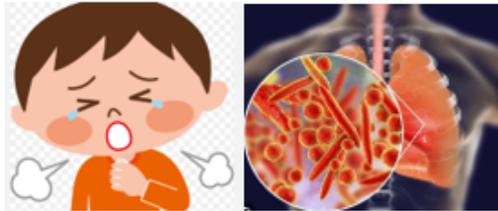
- [小児科](#)(263)
- [循環器](#)(321)
- [消化器・PPI](#)(187)
- [感染症・衛生](#)(329)
- [糖尿病](#)(162)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#)(123)
- [インフルエンザ](#)(119)
- [肝臓・肝炎](#)(67)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#)(58)
- [脳・神経・精神・睡眠障害](#)(76)
- [整形外科・痛風・高尿酸血症](#)(45)
- [ワクチン](#)(99)

<< [慢性閉塞性肺疾患 \(COPD\) の吸入薬の比較](#) | [TOP](#) | [24時間自動血圧計の夜間血圧の有効性](#) >>

2023年06月19日

マイコプラズマ症の再考

マイコプラズマ症の再考



マイコプラズマ感染症を始めとして、ウイルス性呼吸器感染症が流行しています。若干巷間で誤解がありそうなので、2022年版のuptodateとred bookより纏めてみました。

先ずuptodateより

- ・マイコプラズマ感染症は全ての小児 (any age) に認められます。入院の症例の半数は6歳以下です。市中肺炎の一番はマイコプラズマ感染症で8%です。入院の平均は7歳です。感染の年齢分布は2歳以下が2%、2~5歳が5%、5~9歳が16%、10~17歳が23%です。(発生年齢分布は低年齢層が低いのですが、入院率は逆に高く、注意が必要です。)更に問題は、マイコプラズマ感染以外の混合感染が30%です。しかも5歳以下の小児に、混合感染は多く認められています。
- ・無症状のマイコプラズマ感染者がキャリアとなって伝搬の中心となり、その感染力は数週間から数か月に及びます。しかも感染力は抗生剤の服用に関係ありません。
- ・症状は
発熱 (86~96%)
咳 (85~96%) ; 咳は通常は乾性 (痰を伴わない) で数週間から数ヶ月持続する場合があります。やがて悪化しますと湿性となり痰を伴います。
疲労 (78%)
呼吸困難 (67%)
頭痛 (11~48%)
喉の痛み (12~47%)
聴診所見異常 (75%)
肺以外の症状 (26%) で、その中の
溶血、皮膚粘膜症状 (25%)、中枢神経障害 (0.1%)、消化器症状 (38%)、肝障害 (10%)、リウマチ症状、心疾患、腎疾患です。
- ・診断はPCRが基本ですが、不可能の場合はIgMとIgG検査も代替として認められています。IgMは感染後7~9日で上昇し6週間がピークとなり、数か月陽性となります。IgGはIgMが上昇して2週間後にピークとなり、数年陽性が持続します。しかし、IgMもIgGも臨床経過中の早期に陰性となることもあります。
- ・診断がつかないケースも多く、小児の外来では経験的治療を開始しても良いとされています。マクロライド系抗生物質 (クラリス、ジスロマック) に耐性が懸念される場合は、ミノマイシン、ピブラマイシン、ニューキノロン系 (小児の場合はオゼックス) が選択肢と

[癌関係](#)(14)
[脂質異常](#)(31)
[甲状腺・内分泌](#)(22)
[婦人科](#)(20)
[泌尿器・腎臓・前立腺](#)(65)
[熱中症](#)(7)
[日記](#)(31)
[その他](#)(103)

過去ログ

[2025年01月](#)(14)
[2024年12月](#)(14)
[2024年11月](#)(12)
[2024年10月](#)(13)
[2024年09月](#)(14)
[2024年08月](#)(12)
[2024年07月](#)(15)
[2024年06月](#)(14)
[2024年05月](#)(14)
[2024年04月](#)(12)
[2024年03月](#)(14)
[2024年02月](#)(13)
[2024年01月](#)(19)
[2023年12月](#)(17)
[2023年11月](#)(13)
[2023年10月](#)(15)
[2023年09月](#)(12)
[2023年08月](#)(16)
[2023年07月](#)(15)
[2023年06月](#)(14)
[2023年05月](#)(15)
[2023年04月](#)(15)
[2023年03月](#)(15)
[2023年02月](#)(14)
[2023年01月](#)(15)
[2022年12月](#)(12)
[2022年11月](#)(16)
[2022年10月](#)(15)
[2022年09月](#)(13)
[2022年08月](#)(17)
[2022年07月](#)(13)
[2022年06月](#)(15)
[2022年05月](#)(15)
[2022年04月](#)(14)
[2022年03月](#)(15)
[2022年02月](#)(14)
[2022年01月](#)(16)
[2021年12月](#)(14)
[2021年11月](#)(17)
[2021年10月](#)(17)
[2021年09月](#)(13)
[2021年08月](#)(16)
[2021年07月](#)(12)
[2021年06月](#)(16)
[2021年05月](#)(16)
[2021年04月](#)(14)
[2021年03月](#)(18)
[2021年02月](#)(19)
[2021年01月](#)(16)
[2020年12月](#)(17)
以降はカテゴリーで検索してください。

なります。

Red bookより

- ・鼻水、クループ症候群は稀です。
- ・乾性咳から徐々に湿性となり、胸部聴診上ラ音を認めるようになります。時に喘鳴も呈し、特に喘息の既往があれば増悪します。
- ・潜伏期は2～3週間です。
- ・殆どが自然治癒しますが、基礎疾患のある小児ではミノマイシン、マクロライド系の予防投与も考慮されます。

私見)

新型コロナの診療では、全てが未知の経験でした。
5類になった現在も、今までにない経験をしています。
感染症は時に、臨床家にとって今までの経験が通用しない世界へと変貌しています。
武漢で最初に新型コロナを診療し、死亡した眼科医の李医師の叫びは私にとって深く心に刻まれています。



["8歳未満へのテトラサイクリン系.pdf](#)
[マイコプラズマ症・雑誌小児科より.pdf](#)
[マイコプラズマ症が流行しています.pdf](#)
[マイコプラズマ症の今日的問題点.pdf](#)
[小児のマイコプラズマ肺炎による.pdf](#)
[喘息とマイコプラズマ感染症.pdf](#)

0

0

いいね!

ポスト

ブックマーク

【感染症・衛生の最新記事】

[劇症型溶血性連鎖球菌感染症](#)

[新型コロナ（COVID-19）の再感染](#)

[帯状疱疹後の腹壁ヘルニア](#)

[割礼はエイズ（HIV）のリスクの軽減](#)

[RSウイルスワクチン・雑感](#)

posted by 斎賀一 at 20:56 | [感染症・衛生](#)

